

学ぶ・語る・出会う

社会人ボランティアの声

庄司 久子さん

受講科目

・名著購読「生きがいを考える」

—なぜこの授業を選ばれたのですか？

A.そうですね・・・題名が自分にとって身近なものだったからですね。それと3月で仕事を退職して、時間ができたこともありました。

—実際に受けられていかがですか？

A.難しいですねえ（笑）みなさんのお話を聞いてると、幅広い知識が必要だなあって感じます。学生さんもしっかりしてるなあって思いますよ。私が学生だった時は特別なことは考えてなかったけど。でも今の学生さんはこの大変な時代でしょ、自立していかくちやっって自覚してますね。発言を聞いてるとほんと、しっかりしてますね。

—庄司さんにとって生きがいと聞いてどんなことを思われますか？

A. う～ん・・・実際そんなことをゆっくり考えてる暇はなかったですね。とにかく毎日が一生懸命だったから。だからこの生きがいの授業に関しては、ほんとに学生さんと同じ立場ですね（笑）

—庄司さんは3月までお仕事なさってたということですが、お仕事が生きがいを考えるきっかけになったことは・・・？

A.う～ん・・・そういえば、こんなことがありました。私、薬剤師をやっていたんですけど、ある患者さんが来られた時にね、その方、治療のことで悩んでいらしてね・・・その時、私こう言ったんです。『病気は、病院の先生やお薬が治してくれるじゃないんです。自分で治すほかないんです。』って。なんでそんなこと言ったのかなあって思ったらね、私、あの言葉は自分に言ったんだって思うんですよ。私も体調がすごく悪くてね・・・その後も生死を彷徨うような状態にまでなりましたから・・・『一緒に治しましょう。』って言ったんです。その方の手が震えましてね。ああ伝わったのかなって。その方が『あなたはお金としてじゃない。本当に僕のことを考えて言ってくれてる。』そう言って下さって。その言葉が忘れられないです。

—このインタビューの中で、庄司さんはご自分が経験された凄まじいという他ない闘病体験をお話下さいました。まさに生死の境を彷徨うその体験談から発せられた言葉は、あまりにも意外なものでした。それは・・・

『あれほど苦しくつらい経験はなかったけれど、本当に夢の中のような毎日でした。この状態は薬剤師の私に与えられた特別な機会なのかもしれない。そう思った瞬間、私、変わったんですね。とにかく前向きになってね。自分もひどい状態なのに（笑）周りの人をどうやったら助けられるか、なんとかしてあげたいって必死に思ったんです。どんどん勉強してね。それが信じられないくらい頭に入ってきたんです！使命・・・っていうのかもしれない。人は自分がどうなるかわからない状態になった時、本当に人になにかしてあげたいって思えるものなのかもしれないって思いました。誰かにこうしなさいって言われるのではなく、心から自分が心地いいと思うことをしたい・・・それが生きる力になった・・・そういうことなのかもしれません。だから私ね、病気で入院している人にも、困難な状況にある人にも「頑張って」なんて言いたくないんです。「またね」って言うんです。その人に次につながる言葉を言いたって思うんです。』

—『今、これ以上の幸せはないと思ってます。』と庄司さん。それは庄司さんを囲む周りの方たちからの温かい思いやりの中で過ごせているからだとおっしゃっていました。お話は全ては綴ることはできませんが、波乱万丈の人生の中から紡ぎ出されたその幸せの糸は、どんな困難も自分の決断と努力で乗り越えてこられた強い信念で燃られて、さらに次の世代へと受け継がれていくのだと思いました。まさに『生きがい』とはなにか・・・を考えさせられるお話でした。

—学生になにかメッセージを・・・

A.振り返ってみて、まさか自分がこんな人生を生きるとは思ってもみませんでした。でも私、後悔してなんです。それは、やっぱり自分のことは自分で決断してきたからだと思うんです。だからね、自分を信じてほしいです。起きていることを人のせいにしないで、決断は自分でしてほしいんです。そしたら後悔しませんから。それはどんな時代になっても、どんな状況になっても言えることだと思います。うん。自分を信じて。

庄司さん、ありがとうございました。

5月14日（木） 学生支援室にて